

# 大学広報誌 100号記念

1964（昭和39）年に「純心短大ニュース」として創刊された広報誌。今回100号を迎えます。

## 創設期の頃を 振り返って

元学生部長  
人間文化研究科 元教授  
山口 康子

1964年5月30日付「純心短大ニュース」創刊号はB4判1枚、ガリ版片面刷り。取材・編集・校正・印刷のすべてが短大文化部の学生たちによる手作りの新聞です。ローマ教皇庁公使の学園訪問や故江角ヤス生長先生の長崎新聞文化章受章の慶事が報じられ、臨地研究や集中講義の内容紹介など、ささやかながらも「大学新聞」として十分に誇れるものです。

紙面を眺めていると、当時の短大生たちの熱気溢れる活動の様子が甦り、一人一人の姿や声が浮かび上



純心短大ニュース 第1号 昭和39(1964)年発行

がってきます。当時短大は、保育科1クラス、社会科A・B2クラスの小規模校で独立した学舎もなく、文教キャンパスの本館2階に、中高と同居していました。学生たちの熱意に押された新聞発行を教授会に提案した時の、「学生に任せて大丈夫なの?」という危惧に満ちた雰囲気も如実に思い出します。



(右) 山口先生 (左) 長野先生

以来53年、「純心短大ニュース」は「長崎純心大学広報誌」として継承され、大学の発展と共に大きく成長し、通算百号を数えます。誠に喜ばしい事です。「発刊に寄せて」励ましのお言葉を頂いた故片岡弥吉先生のご期待どおりの発展で、嬉しい限りです。

何より私が誇らしく思うのは、卒業生たちが、在学中は何かと反撥していた校訓「いやなことは私がよろこんで」の精神をしっかりと身に付け、それぞれの置かれた場所で周りを照らすよい働きをしている事です。このすばらしい伝統は今後も引き継がれ、純心卒業生が久遠の炬火を掲げ続けてくれる事を信じます。

## 「純心短大ニュース」から「純心大学ニュース」へ

前広報委員長  
比較文化学科 教授  
長野 秀樹

「純心大学ニュース」と改題されて初めての号（平成7年7月発行、通巻では79号）の表紙には、当時の片岡千鶴子学長の巻頭言とともに、浦上天主堂で講演（5月21日）をする大江健三郎氏の写真が掲げられています。平成7年は被爆50年にあたり、同時に学園創立60年、短大創立45年、純心大学も開設1年を経過するという記念すべき年でした。大江氏の講演会には御子息光さんのコンサートも併催され、前日に歓迎会が行われた本学体育館での大江御夫妻、光さんの様子を撮影した写真も最終面に掲載されています。

大江氏がノーベル文学賞を受賞するのが、前年12月のこと。多忙を極められる中での講演会でしたが、その記録は「大江健三郎記念講演 信仰する人たちもそうでない私らも」（「平和を考える被爆50年」実行委員会発行）として、本学から

発行されています。このタイトルが示すように、大江氏自身は信仰は持っていないが、被爆から復興までの純心女子学園と江角ヤス初代学園長の歩みに深い共感を示された講演でした。ちなみに「ニュース」のタイトルに「長崎」がないのは「長崎純心大学」と「純心女子短大」の二つが合わさるように工夫したものの。題字の色はスクールカラーのブルーを採用しました。

号数	発行年	誌名	発行	
1~	1964(昭和39)	純心短大ニュース	純心女子短期大学	文化部
12~	1966(昭和41)	〃	純心女子短期大学	新聞部
79~	1995(平成7)	純心大学ニュース	長崎純心大学 純心女子短期大学	広報委員会
83~	2000(平成12)	〃	長崎純心大学 長崎純心大学短期大学部	広報委員会
89~	2007(平成19)	〃	長崎純心大学	広報委員会
97~	2015(平成27)	JUNSHIN NEWS 長崎純心大学広報誌	長崎純心大学	広報委員会